

中海西岸における魚類のへい死に関する情報提供（第1報）

状 況 平成21年7月14日（火）

14日14:48頃 国土交通省の河川パトロールが、中海西岸の沿岸部で魚類の大量へい死（約3,000匹）を確認しました。へい死魚の多くはマハゼで、その他コチ、コノシロ、セイゴ、ボラが確認されました。

発 生 場 所 松江市大井町地先（別紙参照）

発 生 原 因 調査中

（地元の方の話では、7月13日夕方に鼻上げをする魚を多く見かけたとの情報や7月12日以降、中海湖底の溶存酸素が1.0mg/L未満しかなく7月13日昼から夕方にかけて風速10m/sを超える強い西風が連続して吹いていることから、貧酸素水の沿岸への這い上がり（青潮や苦潮とよばれる現象）の可能性が高いと考えられる。

今後の対応 引き続き、国土交通省において状況の確認を行うとともに、島根県水産技術センターにおいて、魚病検査を実施する予定。

提供先

島根県政記者クラブ、鳥取県政記者クラブ、松江市政記者クラブ、米子市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 出雲河川事務所 水環境課

電話 0853（21）1850

水環境課長 西尾（にしお）

